

会 議 録

1 会議名

平成30年度第2回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

直江津屋台会館について（公開）

【協議事項】

平成30年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成30年5月15日（火）午後6時00分から午後8時08分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、
青山義一、泉 秀夫、磯田一裕、伊藤邦雄、今川芳夫、河野健一、
久保田幸正、田中美佳、田村雅春、中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、
水澤敏夫（欠席1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、千田主任
観光振興課施設経営管理室：新部屋長、丸田副室長

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：青山義一委員、泉委員に依頼

議題【報告事項】直江津屋台会館について、担当課へ説明を求める。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

- ・挨拶
- ・資料No.3「直江津屋台会館の貸館使用料の減免について」に基づき説明

【青山恭造会長】

説明に対し意見等はあるか。

【泉委員】

利用動向調査の結果について、利用日数が資料に示されているが使用料収入にするといくらぐらいになるのか。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

資料を持ち合わせておらず正確な数字はお答えできないが、年間10万円くらいだったかと思う。

【田村委員】

利用率が悪い原因を市はどのように考えているのか。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

理由の一つとして利用料があるのではないかと考え、本日利用料の減免について説明に上がらせていただいた。今後、提示した利用料で運営していき検証を行っていきたい。

【町屋委員】

資料No.3については当日資料として配付された。事前に資料をいただければ自分の意見をまとめておきやすいので、できる範囲で良いので事前送付していただきたい。

まず、屋台会館はイベントホールとして貸館をする施設ではないものを転用してイベントホールにしている。以前、暗くて展示会等には使えないという意見もあった。その中で市は、イベントホール等の稼働率を上げるためにどのような取り組みをしたのか。

また、「2 減免とする利用条件」に『市内の観光地やまちなかへの回遊を促すことを目的』とある。簡単なパネルやチラシを作ってイベント等を行えば減免になるということだと思うが、どうせ作るのならば簡単なものにしてほしくない。利用者にやらせるのではなく、市としてこの期間だけでも特化したものを実施するということはできないのか。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

稼働率を上げるための方策については、市のホームページ等でPRを行っていくが、それだけでは稼働率が上がっていくのは難しいと思っており、利用された方々の意見を聞いていきたいと思っている。以前使っていたいただいた方からは「イベントを行いたいが電気がない」という意見をいただいた。先ほどおっしゃっていたようにイベントを行うための場所ではなかったもので、新たに電気を設けたことがある。

今後、使い勝手等を含めた調査アンケートを行いたいと考えている。

次に2つ目の質問についてだが、私どもとしては減免とする利用条件のハードルを上げたくないと思っている。できる範囲でやっていただくことで、なるべく多くの方々から出店等で御利用いただき、商売をされている方々なら最終的には御自身の商売に繋がっていただきたい。

私どもとすれば、パネルやチラシを作ってくださいと言っても、できる範囲で実施していただきたいと思っている。

【町屋委員】

新水族博物館からのまちなか回遊の拠点として、イベント開催で使ってもらいたいというのは分かるが、行政として本腰を入れ回遊拠点として事業を拡充しようではないかとか、「直江津屋台会館」と言われても観光客の方々は何なのか分からないから、愛称で「うみがたりホール」や「イベントホール」等にするとか、新水族博物館に関連付けて稼働率を上げたり、使い勝手を良くしたりするために何が良いのかをもう少し考えるという考えはないか。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

名前を変更することは難しい。今後の状況を見ながら検討していきたいと思っている。

そして、パネルやチラシを行政が作ってしまうと市民参加に結びついていけないのではないかと考えている。地域の盛り上がりや活性化というのは地元の皆さんが自ら実践していただくことが活性化に繋がるのだと思う。

繰り返しになるが、ハードルが高いものを望んでいるわけではない。できる範囲のことをやっていただくことで、それが市内の回遊、直江津のまちなかへの案内に繋がるものだと認められるものであれば減免をさせていただきたい。ハードルを低く設定し多くの方々からアイデアを出していただき、実践していただければと思っている。

【泉委員】

先ほど年間の10万円前後の使用料収入だと言っていたが、減免が適用されても数万円くらいしか違いがないのではないか。そうであれば資料の「3減免する額」の下の『(参考)』内に「(3) その他市長が必要と認める場合 必要と認める額」という文言を有効に使ったほうがいいのではないか。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

屋台会館の条例に基づき、今回資料のような制度を適用したいと思い説明をさせていただいた。

【磯田委員】

例えばどこかの企業がイベントを行った場合、メインの事業として営利事業を行ったとしても、まち歩きのガイドマップを配れば減額になるという話だと思う。今までの使用料収入は年間で10万円くらいだということだが、それが、市長が認める回遊策なのかということが、私は一番おかしいと思っている。例えば、市のビジョンがあり、それに対して使うのだったら減免するというのは分かる。だが、ハードルを低くするというのは、年間10万円前後の貸館のハードルを下げているだけではないのか。本当にそれで良いのか。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

市内の回遊のほかに、うみがたりの来訪者を対象とするイベント等ではないと減免対象にならない、ということがある。例えば企業の展示会等で使用する場合、うみがたりへの来訪者をおもてなしするというイベントとは認められないので減免対象にはならない。

【磯田委員】

そうすると、かなり絞られたイベントにならないか。例えば町内会の行事で使いたいとか、去年の地域活動支援事業で提案された「夕日コンサート」があるが、イベント当日が雨天の場合に使わせてもらいたいとなると減免対象にはならなくなる。

減免対象となるイベント等をもう少し明確に提示していただきたい。

【観光振興課施設経営管理室：新部室長】

曖昧な表現で申し訳ない。

申請の際、事業の概要書を添付していただくことになっている。事前に私どもへ問い合わせをしていただければと思っており、私どもが考えている方向性と一致しているかどうかの判断をさせていただきたい。

初めての取組で具体例をお示しすることができないが、考え方としては、「うみがたりの来訪者をもてなすイベント等であり、まちなかや市内の観光スポットへ導かせるものであれば対象としたい」ということで御理解いただきたい。

【町屋委員】

市内に同様のイベントホールだと上越観光物産センターがある。そこでいろいろな企業の展示会を行っているが、かなりの使用料が掛かっていると思うので無料になるのなら屋台会館を利用するかもしれない。営利目的でも構わないと言ってまで屋台会館を使ってほしいのか。そして、ターゲットは誰なのか。私たちが普通に考えると町内会や市民団体のイベントを想定するが、そもそも市民団体はここを使えない。8時間のイベントを開催する場合、冷暖房料が6,400円だがそれも出せないという団体が多く、使えないだろう。若しくは、館内は使わず、外だけ借りてイベントをすることが多い。では、対象が誰なのかとと思っているが、営利の部分で言うと、企業の展示会や布団を売っている団体がイベントを行い、水族館の前でチラシを配ったら、水族館の来訪者目的となり減免対象となる。それだけで良いのか。やはり基準が曖昧である。説明では使ってもらうためにアンケートを行う、基準を下げると言っているが、営利団体に良いように利用されてしまうのではないか。

【増田副会長】

資料に『「うみがたり」の来訪者を対象に賑わいを創出し』とあるが、そのためにということ、町内会でイベントを行えば賑わいの創出に繋がるので、そういう判断でハードルを下げると説明していると思う。営利目的であったとしても、そのイベントを行うことによって賑わいが創出されるのであれば減免しようということの説明していると思うので、その趣旨を十分生かしていただきたい。

判断基準が曖昧だという意見があったことを理解していただいた上で、なるべく資料の目的に沿いながら運営していただければ良いのではないかとと思っている。

【田村委員】

これからいろいろな事例が出てくると思うが、もし市内に新水族博物館のような施設があり、その近くにあまり使われていない公民館等があった場合、その公民館等で同じようなイベントを行ったら全て減免にしなくてはいけなくなるのではないか。上越市は本当にそれで良いのかと問いたくなる。

【磯田委員】

それは新水族博物館の近くにある屋台会館の特殊性をきちんと言わなくてはいけない
と思っている。上越市は当エリアでこういう発信をするから屋台会館を活用する。ある
いは、屋台会館の将来的な活用をどうするかを考えるためにこういうことをやるとか、
市民でも分かるようなきちんとしたビジョンの話をしたほうが良いと思っている。

【青山恭造会長】

新水族博物館を核としたまちづくりのために屋台会館の使用料を減免し、皆さんから
大いに活用していただきたいということだと思う。

使い勝手についてだが、煮炊きができないという問題があるので、そこも考えていた
だきたい。ほかのイベント会場ではB級グルメ等で盛り上がっているが、火が使えるれば
屋台会館で魚を焼いて食べさせるということもできるかもしれない。

- ・ほかに意見等がなかったため報告事項については終了とする。

— 観光振興課施設経営管理室 退室 —

次に【協議事項】平成30年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・本日の流れについて説明
- ・資料No.1「平成30年度 直江津区地域活動支援事業提案書 受付一覧」に基づき説
明

【青山恭造会長】

それでは、1件ずつ疑問点等を協議していきたいと思っている。

最初に「No.1 直江津駅前環境美化推進事業」についてはどうか。

【田村委員】

全体を通してだが、補助希望額がオーバーしているので、全事業が採択された場合、
減額も有り得ることを全提案者へ伝えていただきたい。

【滝澤センター長】

承知した。

【青山恭造会長】

- ・「No.1 直江津駅前環境美化推進事業」に対して疑問等はないため終了とする
- 次に「No.2 クリーンナップ上越 in 五智事業」についてはどうか。

【磯田委員】

今回の事業では倉庫の補修代が経費に上がってきているが、倉庫の補修代として地域

活動支援事業の補助金を使っていいのか。専門家の立場から言えば、補修するよりも買い替えたほうが安いのではないかと思う。

【水澤委員】

板金屋が既成の倉庫を修理するのは難しいのではないか。

【泉委員】

ホームセンターに行けば部材で売っている。それを買ってきて入れ替えることはできないのか。

そして、保険料についてだが少し安いのではないか。

【増田副会長】

保険料の見積もりを貰っており予算に計上しているので、保険料がいるか、いらぬかという議論なら分かるが、安いか、高いかの議論はできない。

【泉委員】

保険料の見積もりで最高稼働人数が5人になっているが、お茶代として250本の経費が計上されている。数が合わないのではないか。

【小池係長】

保険の見積もりが2種類あり、関係者だけで行う作業に対しての保険と市民団体や町内の方々も一緒になって行う作業に対しての保険である。

【磯田委員】

先ほどの件で、倉庫を購入することは良いのか。

【青山恭造会長】

地域活動支援事業が始まった当初に購入した経緯があるが、その後いろいろな問題点が出てきてしまい、備品については一切受け付けないことになったかと思う。

【滝澤センター長】

当時、相当議論し購入したのだと思うが、それを今まで大切に使用していただき、今回、その倉庫を修繕したいということである。

【青山恭造会長】

それでは次へ進める。「No.3 五智公園の整備、有効活用支援事業」についてはどうか。

【田村委員】

当事業でいつも問題になるのは、市と団体との棲み分けである。事業の内容は提案書に記載されているが、何故そうなったのかという説明が書かれていない。

【増田副会長】

事前協議先に市の担当課が記載されているが、協議の結果がまだ来ていないのだと思う。だが、事前協議の時に行政がそこまで触れてくるのかが分からない。

【磯田委員】

昨年度の質問でも同じ質問があり回答をいただいている。今回再度同じ質問をしても仕方ないのではないか。ただ、市のスタンスとしては、民が一所懸命やることに對し、応援していくということだが、市全体として五智公園を何年度計画で整備していくところまでは策定していない。

【田村委員】

そうすると、予算が地域活動支援事業に回っただけではないかと考えてしまう。なので、棲み分けの部分をきちんと説明していただきたい。

【泉委員】

本来市がやるべきところを住民団体でやることに對し、結局は市からお金が出ていることになるのではないか。やってもらうことに関しては市も我々もありがたいと思っている。

【増田副会長】

それが共通審査基準に合っているかどうかである。泉委員がおっしゃったような見方もあるし、本来の地域活動支援事業のノウハウから見る見方もあるので、田村委員が言ったように、どこかできちんと棲み分けをしないといけない。

【伊藤委員】

都市整備課では5か年計画を策定しており、それに準じて五智公園の整備を行っている。提案されている内容については、市が行っている計画内には入っておらず、団体が独自で行っている活動である。

公園内の散策路や階段は市の5か年計画内の事業で行っており、昨年も約3,000万円の予算を掛けて整備を行った。それ以外は民間の力を借りて散策に来た人たちのために整備するというのが五智公園を育てる会で行っている事業である。

【磯田委員】

もう1点教えてほしいのだが、今年新たに盛り込まれているのがパンフレットとイノシシの食害への対策である。イノシシの食害について、どのようなものが出ているのか。提案されている柵はどのような効果があるのか。食害の範囲はどの程度まであるのか。

分かれば教えていただきたい。

【増田副会長】

それは質問で出していただければ良いと思う。

【青山恭造会長】

次に「No.4 『米作り体験』事業」についてはどうか。

【中澤委員】

どの程度の町内の子ども達が参加しているのかを知りたい。

【久保田委員】

石橋1・2丁目、栄町1・2丁目、東雲町からは参加している。

【青山恭造会長】

では次に「No.5 《直江津港から元気発信》事業」についてはどうか。

【中澤委員】

昨年の事業内容と違うところはどこなのか。

【磯田委員】

昨年との違いは、小学校の子ども達に生態系について学習させたり、港の見学を行ったりして、勉強と観光振興を併せて提案した事業だと思う。だが、水槽の設置については昨年と同じであり、設置することによって佐渡と直江津の観光振興に、具体的のどのように関わってくるのかが不明である。

【滝澤センター長】

提案の相談を受けている時は、直江津港を活性化していきたいという目的の下、水槽を設置し、目玉にしたいというお話だった。また、その他に地元の小学生も佐渡へ修学旅行に行かなくなってきており、直江津港へも行く機会がなくなってきている。そういったことも含め、小学生を集めて港周辺を紹介していきたいということである。

水槽の維持管理費については、水槽設置の業者とも相談しながら昨年に比べ金額を下げている。

【磯田委員】

子ども達への生態系の学習を盛り込んでいるが、アクアリウムの水槽を教材にすることだが、水槽を見るだけで生態系の迫力とか、山から海までの流れとか、そういうところまで掘っていくようなカリキュラムが水槽だけでできるのかと言うと、とてもできないことだと思っている。各学校から夏休み中にバスを使って港まで来てもらうと

ということだが、学校側とも協議をしているのか。生涯学習の中で出来るのかどうかということに絡んでくる話なので、学校の先生と協議して提案が出てくるのなら分かるが、これだけではどうなのかと思う。

【青山恭造会長】

では次に「No.6 ビーチスポーツフェスティバル in 直江津事業」についてはどうか。

【田村委員】

雪遊びについてだが、本当に雪が必要なのかと疑問に思ってしまう。

【磯田委員】

事業内容に直江津海岸の魅力を発信とあるが、それに雪遊びが必要なのか。そして、去年は「直江津の地域柄や歴史文化の発信」が入っており、旧直江津銀行をサブ会場として使い、SNSで直江津を発信したりしていた。本来、このような活動があるイベントであれば良いのではないかと思うが、その部分がなくなり、ただ単に体験型のイベントを楽しんでもらうためだけの事業になっているのではないかというのが疑問である。

【増田副会長】

ビーチスポーツフェスティバルと言いながら、「SUP体験」や「水上バイク体験」というのはマリンスポーツに入るのではないかと思っている。全て入れ込んでしまえば良いという感じが取れるので、「SUP体験」や「水上バイク体験」は人口的にも限られる中で、マリンスポーツを入れた主旨は何なのかということを確認したいと思っている。

【磯田委員】

ただ、その部分に関しては協賛金を募って行うとなっているので、それに関して質問しなくて良いのではないか。

【青山恭造会長】

昨年の実績を見ると、アトラクションの景品の多くが高田のお店になっている。できれば直江津区のお店で手配していただきたいかった。

【泉委員】

それは重要な話ではないか。直江津区で採択された事業なので、違うところから購入するのはおかしいのではないか。

【青山恭造会長】

・「No.7 船見公園夕日コンサート2018事業」について、疑問等がなかったため終了
次に「No.8 えちご・くびき野100kmマラソン直江津おもてなしプロジェクト2

018事業」についてはどうか。

【田村委員】

全ての見積もり先が同じ会社になっているが、他社からの見積もりは取っているのか。

【小池係長】

10万円以上は2社以上から見積もりを取ることになっているが、見積もりを取った結果、提案書に添付されているほうが低かったなので、結果的に全て同じ会社になっている。

【青山恭造会長】

次に「No.9 鉄道の町『直江津』発信事業」についてはどうか。

【増田副会長】

市民ツアーを行うと提案書に記載されており、切符代が1,000円を25名分となっているが、受益者負担は必要だと思うので、これはしっかりと確認する必要があると思っている。

【滝澤センター長】

参加者から徴収するということか。

【増田副会長】

そうである。一定程度負担していただきたい。

【磯田委員】

まち歩きツアーを主催している方とすれば、基本的には参加者負担で全てを賄っている。地域活動支援事業の補助金の使い方として、ツアーを若干でも補助してくれるのか、してくれないのかという判断を明確にしておいていただきたい。

【増田副会長】

交通費に関しては一部認めるという方針はできているが、参加費については一切認めてこなかった。

【滝澤センター長】

担当課所見によると、参加費をいただく前提で募集を掛けると旅行業法に反してしまうということで、今回は昼食代を団体の負担とし、参加費は無料としている。

【磯田委員】

旅行業法については、バスツアー等で参加を募集するとなると免許が必要となってくるが、まち歩きツアーや個人で参加してきてくれる人が電車を使って高田まで移動する

際の交通費は、ツアーの移動と言うよりも個人で移動するという考え方で良いと思っている。旅行業法に関わってこないのではないか。

【小池係長】

ツアー内容が直江津駅の鉄道遺産だけではなく、電車で移動しながら学習会を行うので切符代が計上されている。

【田村委員】

切符代は個人で払っても何も問題ないと思っている。

【滝澤センター長】

提案団体からも業者等に確認してもらったところ委員の皆さんにお示しした提案書が提出された。

再度事務局から提案者へ確認させていただく。

【青山恭造会長】

それでは次に「No.10 『直江津写真フェア』事業」についてだが、提案書の支出の部に「コンテスト賞品」とあるが、これが必要なのかと疑問に思ってしまうが、皆さんはどうか。

【磯田委員】

「平成30年度地域活動支援事業に関するQ&A」に参加賞や賞品が対象となるのかという質問があるが、そこには「参加賞の金額の目安としては200円以内」と記載されており、賞品については「一般的に実施されている類似事業と比べて高額過ぎないように注意してください」と書かれている。

【青山恭造会長】

上限の設定はしなくて良いか。

【滝澤センター長】

市の基準とすると磯田委員がおっしゃったとおりである。それが高すぎるかどうかは委員で判断していただくことになる。

【青山恭造会長】

事業の実施内容よりも賞品の金額に3分の1くらいを使っている。

【磯田委員】

ほかの写真コンテストを見ても、良い写真を撮りたい、それに対しての評価をいただきたい。そして、それなりの商品が出るということが多い。当事業は全国から募集し、

審査もプロの写真家から評価していただくことになっている。そう考えると、優秀賞が10点というのは多いのではないかと考えている。

【泉委員】

講師の交通費として48,500円計上されているが、これはどのような計算方法になっているのか。

【小池係長】

再度、提案者に確認させていただく。

【磯田委員】

直江津の良いところを写真で撮っていただき、それがデータとして残ると思うが、そのデータを直江津のまちづくりのために使うことはできないか。著作権は撮った人にあると思うが、無償で使わせていただければありがたい。

【田村委員】

優秀賞が10作品、入選が20作品、佳作が10作品の根拠が分からない。こんなに必要なのか。

【滝澤センター長】

70作品から80作品程度の募集を想定しているが、その内の半分くらいの作品に賞が与えられることとなる。

だが、当事業の目的として、コンテストを行った後、直江津の魅力を発信する展示会がある。そうすると数が多いほうが直江津の様々な魅力をPRできるとのことである。

【田村委員】

当団体は過去にも展示会を行っているという実績があるのか。

【小池係長】

写真コンテストは行っている実績はあるが、地域活動支援事業を活用しての事業なのかは不明である。確認させていただく。

【青山恭造会長】

では次に「No.11 天王川クリーンナップ大作戦&フォーラム事業」についてだが、事前協議先として小学校等が上がっているが、全てに了解は得ているのか。

【磯田委員】

了解は得ている。

【泉委員】

天王川の管理は県なのか。

【磯田委員】

市である。生活排水対策課が所管課になるが、「やっていただけるなら是非やっていただきたい」という返答をいただいている。

【青山恭造会長】

範囲はどれくらいか。

【磯田委員】

イトーヨーカドーの前から関川までである。

【田村委員】

1年で終わらない可能性があるが、何年か計画で実施するのか。

【磯田委員】

実施してみないとどれくらい掛かるか分からないが、継続で行っていききたい。

【青山恭造会長】

実施方法としてはどのように考えているか。

【磯田委員】

当該町内と連携していかなくてはいけないと思っているが、小学校とは平日に授業の一環として行いたいと考えている。そして祇園祭が始まる前に終わらせたい。

【田村委員】

清掃時に水をバキュームカー等で吸い出すのか。

【磯田委員】

通常時は10センチから15センチ程度の水深である。2段になっているが、2段目のコンクリート合板の場所に草がかなり生い茂っており、まずそれを除去する。そして泥もかなりあるので並行して取り除いていく。部分的に深い部分があるので今回胴長を購入させていただきたいと思っている。

【青山恭造会長】

では次に「No.12 直江津水族館ロード（仮称）アート修景整備事業」についてはどうか。

【竹内副会長】

今年、新水族博物館がオープンするが、事業内容としては平成28年度に作成した壁画の剥離を補修することと花を植えるとなっているが、それだけではなく、オープンに

向け何か行うのか。

【磯田委員】

オープンまでに直したいということはあるが、オープンに向けて何かするという
までは考えていない。

【青山恭造会長】

では次に「No.1 3 越佐なおえつ物語事業」についてはどうか。

【増田副会長】

講座の会場はどこになるのか。

【小池係長】

明治時代に建てられた民間所有の町屋で行う予定と聞いている。

【青山恭造会長】

イベントスタッフの日当として2,000円が計上されているが、提案団体のメンバ
ーには日当が出ない。メンバー以外の日当なのかを確認しておいていただきたい。

【滝澤センター長】

承知した。

【青山恭造会長】

では次に「No.1 4 寒ブリ祭り事業」についてはどうか。

【磯田委員】

提案書内に「イベントとして定着してきた事を考慮し、広告活動の経費は大きく削減
する」とあるが、昨年の提案書ではチラシ作成を行わずポスターだけだったが、今年は
両方計上してきているため、広告費は昨年より多くなっている。今年はポスターだけで
足りないのかというのが1点。

そして、自主財源で事業を賄おうとしている姿勢は見て分かるが、昨年のブリの材料
費が500kgに対し400パック作っていた。今年は400kgに対し250パック
になっている。比率からすると320パックは出来ることになるのではないか。

そして、ブリ天井の材料費も支出の中で去年は9万円だったが、今年は
16万5,000円に上がっている。ブリ天井の販売金が去年は400杯になっているの
に対し250杯になっている。販売する数が減っているのに金額が上がっているのはお
かしくないか。

【小池係長】

計上している金額は昨年度の決算額を参考に作成している。

【泉委員】

ブリの値段がかなり高騰しているため1パックに入れる量を減らしたとのことである。

【磯田委員】

収入と支出の金額の妥当性で気になるところはある。

【滝澤センター長】

昨年の提案書よりは増額となっているが、昨年の実績からすると減額になっている。

【泉委員】

毎年「佐渡寒ブリ祭り事業」として提案してきているが、今年は「寒ブリ祭り」として提案されている。今までは佐渡市と上越市の関連性があったので佐渡の寒ブリを使っていた。「佐渡」を取った根拠としては市民に定着し、県外客が集うイベントになった。提案者側で参加人数、県外客がどれくらいだったかというデータがあると思うので事務局から確認していただきたい。年々増えてきていると思うので数字を持って皆さんに知っていただきたい。

【青山恭造会長】

以上で全事業の事前協議を終了とする。

【滝澤センター長】

本日の協議会で出た質問以外に何かあれば5月18日（金）までに提出していただくこととなっているが、本日出していただいた質問を確認させていただく。

【小池係長】

◎質問内容の確認

- 全体を通して、補助希望額がオーバーしているので、全事業が採択された場合、減額も有り得るが、減額されても事業が行えるか確認。
- 「No.1 直江津駅前環境美化推進事業」
質問なし
- 「クリーンナップ上越 in 五智事業」
質問なし
- 「No.3 五智公園の整備、有効活用支援事業」
 - ・団体が行う事業と市が行う事業の棲み分けについて再度確認したい。
 - ・イノシシの食害について（被害状況・効果等）

○「No.4 『米作り体験』事業」

- ・他町内からの参加者はどれくらいか。内訳の確認。

○「No.5 《直江津港から元気発信》事業」

- ・夏休みの学習会について、各学校と十分議論しているか。

○「No.6 ビーチスポーツフェスティバル in 直江津事業」

- ・直江津の魅力発信をするために雪は必要なのか。
- ・旧直江津銀行を活用したり、SNSで発信したりすることはしないのか。
- ・景品を直江津区で購入することはできないか。
- ・水上バイクについて、試乗体験なのか、後ろに乗るだけなのか。試乗体験の場合、免許が必要になってくるのではないか。

○「No.7 船見公園夕日コンサート2018事業」

質問なし

○「No.8 えちご・くびき野100kmマラソン直江津おもてなしプロジェクト2018事業」

質問なし

○「No.9 鉄道の町『直江津』発信事業」

- ・ツアーについて、受益者負担が必要なのではないか。

○「No.10 『直江津写真フェア』事業」

- ・コンテスト賞品が多すぎるのではないか。
- ・審査員はどこから来るのか。
- ・展示会終了後、データを無償でまちづくりのために使用することはできないか。
- ・今まで地域活動支援事業を活用して同じような事業を行ったことがあるか。
- ・展示会を直江津でも開催する予定はあるのか。

○「No.11 天王川クリーンナップ大作戦&フォーラム事業」

質問なし

○「No.12 直江津水族館ロード（仮称）アート修景整備事業」

質問なし

○「No.13 越佐なおえつ物語事業」

- ・イベントスタッフの日当経費について、団体のメンバー以外かどうか。

○「No.14 寒ブリ祭り事業」

- ・ポスターだけでは足りないのでチラシを作るのか。
- ・収支の妥当性について。
- ・参加者数の内訳を確認したい。

【青山恭造会長】

では次に「その他」について、再度事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・ほかの質問があれば5月18日（金）までに提出するよう依頼
- ・今後のスケジュールについて説明
- ・次回協議会：6月5日（火）午後6時から

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。